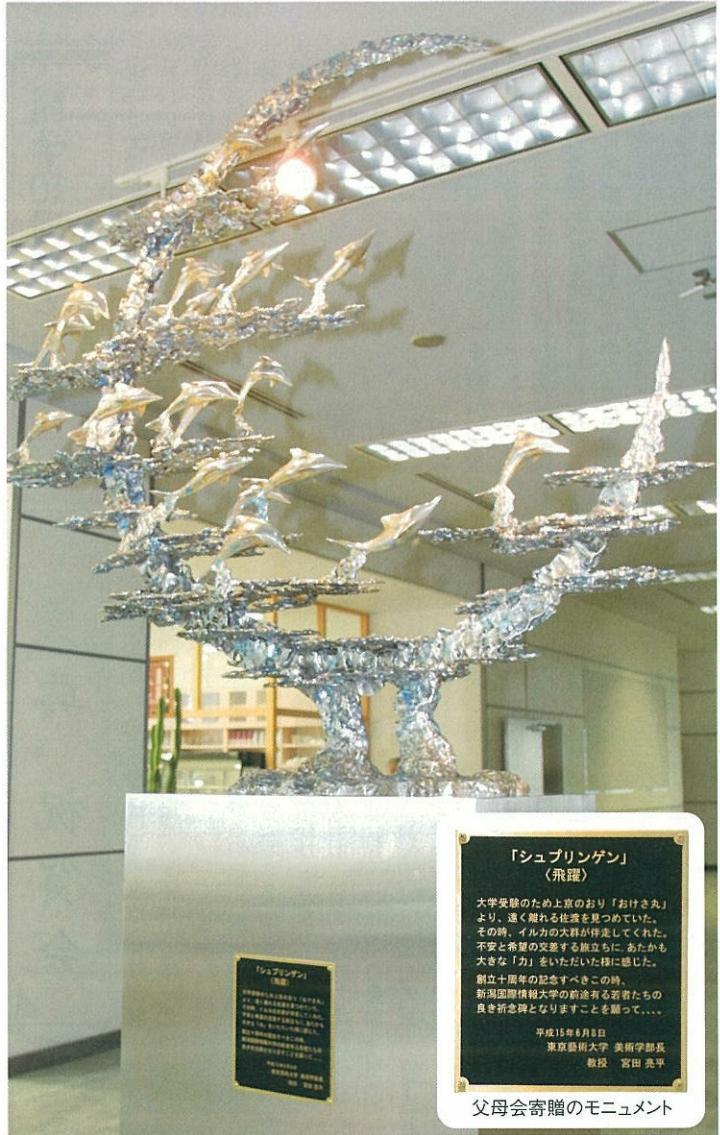


国際情報部

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第20号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp URL http://www.nuiis.ac.jp



10周年記念事業のご報告



『国際化に生きる、情報化を活かす』新しい人材の育成を目指して平成六年四月に開学した本学も、十周年を迎えることができました。これを機に我が新潟国際情報大学は学生の学習意欲をさらに高めるとともに、本学が果たしてきた役割を強化するために次の記念事業を実施いたしました。

- 一、新潟市の市街地に「新潟中央キャンバス」を開校。四年次生の教育の一部と就職活動や同窓会活動の拠点として、また生涯学習や公開講座の拠点としての役割を果たします。
- 二、情報センター棟の増築。1階は新たに75,000冊の蔵書が可能になりました。図書館機能だけでなく、グループ学習室、集中学習室、語学自習室、情報発信室など新設されマルチメディア多機能スペースにより充実させました。2階は「国際交流センター」を新設し、海外の提携大学との交流促進を図ります。(詳しくは2面)
- 三、学内の情報環境の整備をさらに進め、高速ネットワーク技術や高性能なコンピューティング環境を取り入れた、国際化、情報化に対応した先端的なキャンパスを目指します。これによって本校と新潟中央キャンパスとの遠隔授業やテレビ会議も可能となります。
- このように学習環境の充実を図ることにより、設立時より標榜してきた本学の特色をさらに高めることができとなりました。
- 益々進む国際化、情報化的時代に、新潟県の未来を担う有為な人材の育成に大きく貢献出来るものと確信しております。

開学10周年を迎えて

学校法人 新潟平成学院理事長 小澤 辰男

本学は創立十周年を迎えました。十余年前、新潟市には高等教育機関、特に私立の四年制大学が極めて少なく、新潟市・新潟県・地元経済界が一体となって、「大學を作ろう」という構想の実現に向け動き出しました。ロシア、中国、韓国など対岸の国々と海路・空路で結ばれ、長い交流の歴史を背景に、環日本海時代をリードする国際都市として、新潟が発展するためには国際社会に通用する人材育成が急務だったのです。

言語だけではなく文化や歴史を理解し、「二十一世紀に活躍できる人材を、この地で育てたい」という願いをこめ、平成六年四月開校しました。卒業生1,750名が巣立ち、県内はもとより全国各地、海外で活躍を続けています。

大学は、人材育成と同時に地域社会に根ざし、「ミニコトイ」と共に歩み、教育を通じて社会に貢献する責務があると考えております。そのようなことから十周年記念事業の環として「新潟中央キャンパス」を新潟市街地、杠谷小路の角に開校いたしました。1-Fの学生ホールと前庭の「杠谷小路ゆうあい公園」には父母会から寄贈いただいたイルカの記念王「コメント」がそれぞれ設置されました。新潟県出身で東京藝術大学教授、美術学部長の富田亮平先生からお造りいただいたものです。

「新潟中央キャンパス」は学業はもとより、就職活動、同窓会の集まりに加え、市民公開講座、生涯学習などの一般開放や、将来は社会人向けの大学院

日本の社会は混迷を深め、大学を取り巻く環境は厳しく、構造的不況、雇用不安、北朝鮮をめぐる緊張も続いているが、十年を節目に新たな飛躍を目指します。インターネットの拡充、留学制度や奨学金など学費支援制度の充実に努め、大学としての責務を果たし、地域活性化の翼を担つてまいる決意を新たにしております。引き続きご理解、ご協力をお願い申し上げます。



開学10周年を迎えて

新潟国際情報大学長
武藤 輝

本学は大学設置基準の大綱化(平成3年)といふ新しい波の中で、平成6年の春に開学致しました。国際化、情報化のこれからの中、心温かく、相応しい能力を備え、大いに活躍できる人物を育成するのが本学創立の理念であり、目的でもありました。幸い本年3月までに、1~750名の前途有為の卒業生が社会へと巣立つに行きました。大変嬉しいことです。

8日(日)の開学10周年記念式典並びに祝賀会(ホテル新潟)には新潟県内外から多数のご来賓においていただき、本学の役員、教職員、学生代表、父母会の代表の方々、同窓会の代表など多数出席され、各方面から多数の祝辞を頂戴致しました。この日の午前中には、新しく新潟市の中心部に開設された新潟中央キャンパスのテープカットも行われ、市民の皆さんから注目され、感謝されております。6月6日には市民公開講演会を、6月7日には主として外国(米国、カナダ、中国、韓国、ロシア)の提携大学からの演者を加えて、国際シンポジウムを開催し、実り多き成果を得ることができました。

今後、役員、教職員の意欲が高れば、大学院修士

海外招待者の紹介や校歌と
時間を交えながら、閉会の時間
雰囲気での祝宴となりました。

式典、祝賀会

平成15年6月8日(日曜日)、ホテル新潟2階芙蓉の間において「新潟国際情報大学創立十周年記念式典」が行われました。

開学にいたるまでの関係者の想い、当校に寄せる期待など十年前の様子を伝える、小澤辰男理事長や武藤輝一学長の式辞、挨拶から始まり、校歌作詞者の松澤博氏とキャラクター作成者の吉原力氏の表彰、十周年記念品の贈呈式が行われ、父母会からはシユブリンクンゲン(飛躍)と題されたイルカの記

念三「メント、同窓会(みずき会)からは絵画を贈つていただきました。

続いて父母会長、同窓会長、モニメント作成者の東京藝術大学美術学部長、宮田亮平氏と校歌作曲者の上越教育大学後藤丹氏に感謝状が贈呈されました。

十周年記念事業の一環として、新潟中央キャンパス開校情報センター棟の増築、「国際交流センタ

「記念品の贈呈」が実施されました。来賓祝辞と各方面からの祝電では、新潟国際情報大学および学生への期待と新潟の発展にさらに貢献して欲しいとの願いが込められた新潟県知事（代理 川上忠義副知事）、篠田昭新潟市長、日本私立大学協会長（代理 原野幸康常務理事）、上原明新潟商工会議所会頭からのお言葉をいただき、さらなる飛躍を誓い、式典は閉会となりました。

創立十周年記念祝賀会が続いて行われ、約600人の参列者を前に小澤辰男理事長の挨拶の後、長谷川彰新潟大学長、宮田亮平東京藝術大学美術学部長より祝辞をいただきました。

海外提携大学からの招待客も加わった鏡開きは、総勢15名による盛大なものとなり、華やいだ空気の中、長谷川義明前新潟市長の乾杯で祝宴が始まりました。

ニーティングルームなどがあります。的とする大学内の施設としては、全類をみない規模機能を持つ国際交流是非一度足を運んでみてください。

国際交流センターの開設

国際交流センターは、学生・教員・地域による国際交流をより一層充実させていくための拠点として、2003年9月に開館致します。派遣留学・夏期セミナーを中心とした海外留学・学生・教員グループによる国際交流・海外の研究者や提携大学・学部との交流などを促進・支援していくことがセンターの事業の中心です。センター内の主な施設としては、派遣留学等の事前研修、国際交流関連の授業科目や公開講座・講演会や国際会議などが行われるセミナールーム、提携大学・学部やその他の海外の大学に関する資料などが展示・配架される留学交流スペース、国際交流関連の雑誌・書籍が配架される書籍閲覧スペース、国際交流関連の団体や学生有志がミーティングなどをを行うことができるミーティングルームなどがあります。国際交流を目的とする大学内の施設としては、全国的にみても類をみない規模・機能を持つ国際交流センターに、是非度足を運んでみてください。

開校式

学術シンポジウム

社会のために、市民と共に

情報文化学科教授
區建英

本学は去る六月七日、朱鷺メッセ国際会議場において、創立十周年記念学術シンポジウムを開催し、県内外から約三百人の参加を頂いた。共通テーマは「国際化・情報化と大学の社会的役割」である。二十一世紀のさまざまな課題に対応する

帶に短い櫻に長しといふが、今回の講師の選定は予想以上に難航した。本学の10周年記念事業の一環として行われる市民向けのこの催しにふさわしい講師はだれか。教職員の間からは、もつと辛口の、あるいはむしりアカデミックな人といふ声もあったが、結局、アグネス・チャン氏に決まった。そして結果的には、成功だったといえると思う。

うことを企図し、それを市民に一般公開することで、大学と社会との結びつき、市民の学術参加を目標としたものである。シンポジウムでは、「グローバルな情報空間が新たな不平等や差別ではなく、相互扶助的な共生社会を生みだすための条件」を提起した武者小路公秀氏による基調講演の後、二つの特別講演、二つの分科会を行つて、

二の特別講演と二の分科会を行なわれた。分科会のテーマは、「新世紀アジア太平洋〈共生〉の条件」である。アジア太平洋、とくに東アジアの問題に焦点を当て、グローバル化時代の中長期間的な平和構築の可能性について多角的な議論を開いた。中国（北京師範大学）・ロシア（国立極東大学）・韓国（慶熙大学）の代表はそれぞれ、東アジアの歴史、現在の国際問題、未来の地域協力について話し合ひ、文化的な「相互理解」の努力が今後さらに必要であるという認識を共有した。

第一分科会は、「電子自治体の展望と大学の役割」をテーマとし、地域づくりセンターについての問題提起、海外の実情と電子社会の理念の再整理を行った上で、大学の地域貢献として、大学が主体となって設立・運営を目指す地域総合センターについて、官民それぞれの角度から討論を開いた。そして、学生による地域貢献モデルの開発、一人による地場産業のサポートなどが、地域総合センターが担う主な役割であると結論づけた。

う。 約七万円が投じられていたところの募金箱には、ただけのユニセイフの片隅にポンとおかれてしまつたと思つ。愛りに満足してくられた。



新潟国際情報大学校歌

新潟国際情報大学キャラクター



▲在学中に野うさぎがキャンパス内に現れ、一緒にたわむれた思い出があります。その記憶からうさぎをマスコットにしました。ボーネズですが、左手を前にかざし指さしています。その先には「nuijs」の未来が、そして在学生・卒業生・教職員の方々の夢があるのです。

校歌・キャラクター決定！

アグネス・チャン講演会

情報文化学科教授

原口
武彦

本学10周年記念事業の一環として、校歌・キャラクターの作製がおこなわれました。校歌の作詞、キャラクターについて公募を行い、多数ご応募いただいた中から、校歌歌詞は新潟市小針在住の松澤博さんの作品、キャラクター「デザイン」は本学第3期卒業生の吉原力さんの作品に決定いたしました。ご応募いただいた皆様、誠にありがとうございました。尚、校歌の曲については、上越教育大学の後藤丹先生にお作りいただきました。

作品については、6月8日の開学記念式典、祝賀会において表彰・披露されました。

ゼミ紹介

河原ゼミでは、画像処理に関する研究を行います。人間はさまざまな情報を、主として目を通して得ています。「コンピュータでさまざまなお手本を用いて、研究のテーマは、画像を扱うことは重要になります。卒業研究のテーマは、「画像を処理するものと、画像を作成するもの」その他に分かれます。具体的なテーマは、「画像への情報埋め込み」「ボット」「顔の認識」「3Dモデル案内図」「CGによるカタログ作成」「ゲームプログラミング」「音の解析」「CCCDについて」など、多分野に分かれていて、学生が各自希望するものを選んでいます。

研究内容が他分野にわたっているせいか(教員の趣味という説も)、研究室には機材がたくさんあります。パソコンは10台以上、周辺機器も多数、ソフトもいろいろあります。プログラミング・CG作成関係のソフトがある程度そろっています。

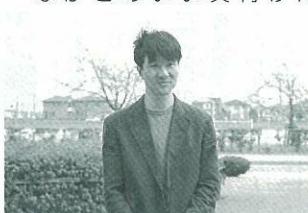


私のゼミ観

情報文化学科助教授

臼井 陽一郎

ゼミとは、「日本の大学独自のものである。そこには、技術を体得する実習ではなく、練習問題に取り組む演習でもなく、教養を広げるセミナー」ですらない。そのような部分が確かに存在する。その全てを表層的に取り込もうとするが、尚それが異なる次元にある「もののかが志向される」と異なる次元にある「もののかが志向される」。ゼミナールというカタカナ化された独語には、この深層的なもののかの響きがある。この志向は、ゼミをサークル化する「美」にもなる。ゼミとは酒を酌み交わす仲間とともに旅に出る仲間との出会いの場であり交流の場である。これらはゼミという場の基底に想いを寄せるきっかけであつても決してゼミの実体そのものではないはずだ。ゼミに参加する立場にあつた学生時代、このようなことを漠然と夢想していたが、ゼミを担当する立場になつて以来、結局は実習・演習・セミナーという表層的な部分を上滑りしてきた感がある。



河原ゼミ(卒論ゼミナー)

情報システム学科講師 河原 和好

ついで、雑誌も多々あります。他にも、ロボット(ロードボット)で動かすもの、自分で動くロボット、ペット型ロボットなど)、映像関係(スキャナ、デジタルビデオカメラはもちろん、ビデオ、デジタルビデオカメラ)、音響関係(キーボード、ギターなど)まであります。

ゼミでは、交流の一環として今年はボウリング大会をおこないました。また、ゼミ合宿も毎年行って、研究発表を行っています。大学祭においても研究成果を発表し、客観的な評価を色々な方に見てもらっています。

「コンピュータに興味のある人はもちろん、ロボットを触ってみたい、ゲームを作つてみたい、絵を描いてみたい」といったことに興味のある人は、気軽に声をかけてください。



世界がキャラパス!

2003年度派遣留学 夏期セミナーの実施日程

今年度も2年生を中心夏以降、海外に留学、研修に多くの学生が旅立ちます。ただ、残念なことに、中国コースは来年度への延期が決定されました。

アルバータ大学(カナダ、エドモントン市)

8月3日(日) 出国

8月5日(火) 授業開始

8月14日(木)、19日(火)、21日(木)、28日(木)、

9月4日(木) 企業訪問

9月4日(木) 授業終了

9月5日(金) 試験日

9月7日(日) 帰国

12月28日(日) 修了式

出國

入学式、ロシア語テスト

授業開始

年末休業

期末試験

クリスマス祝い

新年行事の準備

ロシア正教のクリスマス祝い

帰国

2004年1月6日(火)～1月7日(水)

2004年1月11日(日) 帰国

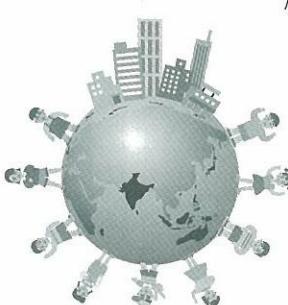
2003年12月29日(月)～2004年1月4日(日)

2004年1月5日(月)～1月9日(金)

1月29日(月)～1月30日(火)

● 今年度の中国コースは中止しました。

北京師範大学への派遣留学は、SARSの問題を考え、考慮して今年度の実施は見送り、来年度改めて実施することになりました。中国の取り組みにより事態は改善され、WHOの北京市への渡航延期勧告も6月24日に解除されました。冬の再発の可能性が否定できず、再発の場合は途中帰国の可能性があることを考慮しました。



学事日程

8月 1日(金)	夏期休業開始
9月22日(月)	後期授業開始
10月18日(土)、19日(日)	紅翔祭(学園祭)
12月23日(火)	冬期休業開始
1月 8日(木)	授業開始
20日(火)	後期講義終了
21日(水)～27日(火)	後期定期試験
3月15日(月)	春期休業開始
19日(金)	卒業式

5月22、23日の2日間にわたり、日本計算機統計学会が朱鷺メッセにて行われました。私が大会実行委員長として、赤木教授が大会実行委員として大会運営にあたりました。また本学から事務員4名、学生11名にもお手伝い頂き大会を無事終えることができました。今大会は例年の大会よりも申込件数が多く34件の研究報告、6件のソフトウエアデモが行われました(全参加者は125名)。また、特別講演として新潟大学医学部教授・安保徹先生による免疫学の講演NTTデータ(株)・坂野鋭さんによるパターン認識の講演も行われました。私は「因子負荷量に関する検定統計量と近似分布について」という題目で研究発表を行いました。



日本計算機統計学会、開催される

情報システム学科助教授 塚田 真一

5月22、23日の2日間にわたり、日本計算機統計学会が朱鷺メッセにて行われました。私が大会実行委員長として、赤木教授が大会実行委員として大会運営にあたりました。また本学から事務員4名、学生11名にもお手伝い頂き大会を無事終えることができました。今大会は例年の大会よりも申込件数が多く34件の研究報告、6件のソフトウエアデモが行われました(全参加者は125名)。また、特別講演として新潟大学医学部教授・安保徹先生による免疫学の講演NTTデータ(株)・坂野鋭さんによるパターン認識の講演も行われました。私は「因子負荷量に関する検定統計量と近似分布について」という題目で研究発表を行いました。

学会報告

莉部恒徳教授

「Grendelは怨霊だった—Beowulfの怪物への新たな視点」
第75回日本英文学会全国大会、成蹊大学、5月25日(日)

小宮山智志講師

「地域における不公平感の地域間格差の解明—階層線形モデルの応用例」
日本選舉学会、金沢大学(金沢市觀光会館・石川県立社会教育センター)
5月18日(日)

平田透助教授

永田晃也編『価値創造システムとしての企業』共著、学文社、2003年3月
2003年4月

長坂格講師

「海外における日本人、日本のなかの外国人」共著、昭和堂、2003年2月
「国際関係論のフロンティア」共著、ミネルヴァ書房、2003年4月

白井陽郎助教授

田村正勝編著「甦る」(ノンフィクション)、哲学と社会科学の対話』共著、文眞堂、
2003年3月

越智敏夫助教授・佐々木寛助教授

鈴木佳秀編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』共著、高志書院、
2003年3月

著書

2003年3月1日から6月30までの出版と学会報告のうち、ご本人から提示のあったものです。ただし、一部実際には3月に出版されたものも含みます。

就職課よりお知らせ

3年次生、4年次生を対象に夏期休業中、下記のスケジュールを予定しています。積極的に参加して下さい。

3年次生対象

就職何でも相談

8月18日(月)～8月28日(木)

9月 8日(月)～9月12日(金)

※土日祝日は除く

8月 2日(土) …… 就職模擬試験(一般常識・職務適性)

8月29日(金) …… 就職模擬試験フォローガイダンス

9月 7日(日) …… 3年次生父母就職説明会

4年次生対象

8月12日(火) …… 就職未内定者向け就職指導ガイダンス

学務課より夏期休業期間のお願い

◇海外旅行日程届◇

ゼミ旅行(合宿)、個人的な旅行を問わず、海外へ渡航する場合は「海外旅行日程届」を事前に学務課まで提出してください。他に、学生同士で登山をする場合も事前に登山計画を学務課まで提出してください。

出入り口の解錠施錠時刻

平成15年8月1日～平成15年9月20日

月～金	解錠	施錠
	8:45	19:00
土	閉鎖	
日・祝日*	閉鎖	

* 8月13日～16日は、「日・祝日」扱いになります。

教員の研究活動

6月1日(日)

原口武彦教授

「コートジボワール紛争」日本アフリカ学会第40回学術大会、島根大学、
6月1日(日)

塚田真助教授

「因子負荷量に関する検定統計量と近似分布について」
日本計算機統計学会、新潟市・朱鷺メッセ、5月22日(木)

竹並輝之教授

「JABEE試行審査報告」情報処理学会第65回全国大会、東京工科大学、
3月27日(木)

小宮山智志講師

「地域における不公平感の地域間格差の解明—階層線形モデルの応用例」
日本選舉学会、金沢大学(金沢市觀光会館・石川県立社会教育センター)
5月18日(日)

平田透助教授

永田晃也編『価値創造システムとしての企業』共著、学文社、2003年3月
2003年4月

長坂格講師

「海外における日本人、日本のなかの外国人」共著、昭和堂、2003年2月
「国際関係論のフロンティア」共著、ミネルヴァ書房、2003年4月

白井陽郎助教授

田村正勝編著「甦る」(ノンフィクション)、哲学と社会科学の対話』共著、文眞堂、
2003年3月

越智敏夫助教授・佐々木寛助教授

鈴木佳秀編『神話・伝説の成立とその展開の比較研究』共著、高志書院、
2003年3月

大学を体験しよう!!

【本校にて開催】

第2回オープンキャンパス

■平成15年10月4日(土) 10:00~15:30

■CONTENTS

- 学部・学科紹介
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- カリキュラム、履修説明
- 入試個別相談
- 海外留学相談
- 就職相談
- 在学生による何でも相談

※昼食は学生食堂にて無料提供します。ぜひご試食ください!

<第1回目は7月26日(土)に終了しました>

NUIS-LIVE

大学ではどんなことを学ぶの?
NUISの特色ある講義を体験しよう!

~国際化・情報化を体感~

■平成15年8月21日(木) 10:00~15:10

情報システム学科、情報文化学科、両学科の講義を開講します。

各イベントの申込み方法

高校の進路指導の先生もしくは、下記にお申込み下さい。

■お問い合わせ先

新潟国際情報大学広報係

〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1
TEL 025-239-3111 FAX 025-239-3690
E-Mail soudan@nisd.ac.jp

市民のための

公開講座

…中級者向パソコン教室…

■日 時	10/18日、25日、11/1日、8日
■時 間	13:00~16:00
■会 場	本校(新潟市みずき野3-1-1)
■定 員	80人(応募者多数の場合は抽選となります)
■申込み方法	往復はがきに 住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、お申込み下さい。 〒950-2292 新潟市みずき野3-1-1 「新潟国際情報大学 中級者向パソコン教室」 総務課宛 9/29(月)~10/6(月)必着。

2003年度公開講座

「映画の中の市民社会」を終えて

地域交流委員(情報文化学科助教授) 佐々木 寛

本講座は五年目となつたが、例年通り、新聞やテレビなど認知されるようになつた。今年も例年どおり百名前後の受講生を迎え、「平和と希望の再構築」という共通テーマで映画を鑑賞し、議論を深めた。作品のみだが、本学の新潟中央キャンパスで初上映することができた。ゲスト講師として新進気鋭の映画監督森達也さんをお招きできたことも大きな収穫だった。選ばれた四作品の映画はどれも芸術性が高いもので、一般上映では採算がたたないものばかりだったが、市民映画館「万代シネマウインド」のご協力で質の高い講座を実現することができた。この場をかりて、参加してくださった受講生のみなさんはもちろんのこと、快く講演を引き受けたくださった講師の先生、足繁く映画館に足を運んでくださった本学教員のみなさん、そしてなによりも、本講座を陰で支えてくださった本学事務員やシネマウンドスタッフのみなさんへあつく御礼を申し上げたい。

平成16年度 入学者選抜試験日程 ◎詳細は募集要項でご確認下さい。

入試区分		募集人員		出願期間		試験日	試験実施教科・科目
推薦入試	高校長推薦 指定校制	情報文化学科	10	15.11.1(土)~ 11.10(月)	15.11.16(日)	_____	本学が指定校と定めた高校長あて推薦依頼を行います。
	高校長推薦 公募制	情報文化学科	30			面接・小論文	
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科	35			面接・小論文・基礎体力テスト 種目は募集要項で確認ください。	
社会人特別選抜		情報文化学科	若干名			面接・小論文	
一般入試	前 期		情報文化学科 35	95	16.1.6(火)~1.22(木)	16.2.2(月)	・国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
	大学入試センター試験		情報システム学科 60			_____	学部試験を課さず、16年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
	後 期		情報文化学科 15	35	16.2.5(木)~2.13(金)	_____	学部試験を課さず、16年度のセンター試験の成績で判定。全教科の中から2教科2科目選択 配点：各教科100点。3科目以上受験した場合は高得点の2教科2科目を合否判定に使用
			情報システム学科 20			16.3.8(月)	・国語：国語Ⅰ・国語Ⅱ (いずれも古文・漢文を除く) ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅱは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験会場で選択
			情報文化学科 10	25	16.2.20(金)~3.2(火)	_____	
			情報システム学科 15			16.3.8(月)	

●入試に関する問合わせ先

新潟国際情報大学学務課教務係 〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 電話(025)239-3111 FAX(025)239-3690

紅翔祭開催!!

テーマ: It's now or never !!

10月18日(土)・19日(日)

イベント(予定)

- ゼミ体験会
- CEP(Communicative English Program)ビデオ・アクティビティー
- カラオケ大会

出展(予定)

- 模擬店
- ゼミ紹介
- サークル紹介

※一般の方も
参加できます。



今年は、新潟中央キャンパスの建立、本学においては、国際交流センターの新設や、図書館の増設など、目覚しい進展を遂げています。そこで、今年は創立10周年という節目に着目し、「It's now or never!!」というテーマにしました。直訳すると、「今しかやる時がない!」という意味です。学友会にしても、度しが詰れない10年、という学念すべき節目の年に、様々な事に挑戦し、今まで以上に紅翔祭を盛り上げるという理念のもと、決めました。人が何かを成し遂げようとする時、良い物を生み出す為には、数々の試行錯誤を繰り返す事が必要です。「今は、こんな悪い部分があるから、これを変えてみてはどうだろう」「変えてみたけれども、思ったほど効果はなさそうだから別な方法はないだろうか」という想いです。これから、红翔祭までの期間を精一杯活用し、時間をかけて作り上げていこうと思います。

多くの学生、地域の皆様が紅翔祭に参加してくれる事を願っています。

紅翔祭実行委員長 桑田 和征



今年度も10月18日、19日に紅翔祭を開催します。今年度の学友会執行部・紅翔祭実行委員のメンバーは大半が紅翔祭の未経験者ばかりで何をやるにも分からぬ事ばかりです。そんな新生学友会執行部ですが、昨年を例としない新たなイベントの取り入れや、行事など、様々な事に挑戦しています。出展者の募集や、企業まわりなど、大変な事は多いですが、紅翔祭を成功し、充実させたものにする為に、日々頑張っています。

今年は、新潟中央キャンパスの建立、本学においては、国際交流センターの新設や、図書館の増設など、目覚しい進展を遂げています。そこで、今年は創立10周年という節目に着目し、「It's now or never!!」というテーマにしました。直訳すると、「今しかやる時がない!」といふ意味です。学友会にしても、度しが詰れない10年、という学念すべき節目の年に、様々な事に挑戦し、今まで以上に紅翔祭を盛り上げるという理念のもと、決めました。人が何かを成し遂げようとする時、良い物を生み出す為には、数々の試行錯誤を繰り返す事が必要です。「今は、こんな悪い部分があるから、これを変えてみてはどうだろう」「変えてみたけれども、思ったほど効果はなさそうだから別な方法はないだろうか」という想いです。これから、红翔祭までの期間を精一杯活用し、時間をかけ作り上げていこうと思います。

多くの学生、地域の皆様が紅翔祭に参加してくれる事を願っています。

文化講演会



日時 / 10月19日(日) 開場 14:30 開演 15:00
講師 / 永六輔氏 (テーマ未定)
場所 / 本校体育館(新潟市みずき野3-1-1)

定員 / 500名先着無料。定員になりました。
次第〆切り

申し込み方法 / 整理券が必要となりますので、はがきに住所・氏名・年齢・職業・電話番号・希望枚数を明記の上お申込みください。お一人様、5名様分までお申込みいただけます。9月8日(月)より受付ます。

申し込み先 / 〒951-2200 新潟市みずき野3-1-1 「新潟国際情報大学 紅翔祭実行委員会 文化講演会」宛
※当選発表は整理券の発送をもって
かえさせていただきます。

問い合わせ / 新潟国際情報大学学務課
☎ 025-239-3111

スポーツ大会

スポーツ大会実行委員長 山澤 真

今年度も5月21日(水)に、学友会主催のスポーツ大会が行われました。種目は昨年と同じく、大綱・サッカー・ソフトボールに当日エントリーによる、フリースロー・ストラッシュアウト・フィットネス研究会主催によるアーモレスリング大会が開かれました。サッカー・ソフトボールにおいては、学生の優勝チームと本学の教員による教員チームとの試合を行いました。サッカーは、20分間の試合でも決着が着かず、PK戦の末に、教員チームが収めるという熱戦が繰り広げられました。ソフトボールの方は、学生チームが勝利しました。準備段階から、「昨年と同じでは駄目だ」とか「昨年以上に盛り上げよう」と思っていました。そして今年はだれでも参加できるようなストラップアウトを追加するとともに、学生と教員チームの対戦を企画しました。大綱・サッカー・ソフトボールの全てが昨年より参加チームが多く、また好天にも恵まれ、例年以上に盛り上がりを見せました。

最後になりましたが、スポーツ大会を開催するに当たって、ご協力していただいた教職員の方々、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。



卒業生の便り

—留学で掴んだ「縁」—

川上 洋子
情報文化学科 平成10年度卒

卒業してから早4年が過ぎようとしている。あつという間ともいえ
るが、それ以上に年月が過ぎたようにも感じられる。それはこの韓国
留学を決めるまで私なりに苦労を味わったからである。最初から順
調な道なんではない。苦い思いしてこそ噛みしめる思いも感慨深く、達成
感も大きい。諦めたら終り、最後の一瞬まで諦めなければ夢は必ず叶
う、必ず道は開ける。

私は現在、慶熙大学教育大学院で「外国语としての韓国語教育」
を専攻している。外国人向けに教える韓国語教育の研究である。授
業は夜間であるためほとんどの学生が昼間は社会人、夜は学生の二
足の草鞋をはいている。授業以外に大学院では勉強会(スタディー)と呼
ばれているで不足した知識の補いや先輩から後輩までの縦のつなが
り、横のつながりを充たしてくれる所以である。留学生どうし互いの勞
をねぎらう時間も、これもまた留学生活の醍醐味になりつつある。
「留学生生活を楽しく充実としたものにできるかは、様々な人との関
わり・縁で決まるようなものである。」とある教授がこうおっしゃってい
た。そう思うと、現地の友なくしては無事今学期を終えることもでき
ないなかつたかも知れない。幸運にも大学院では、理解のある教授陣を
はじめ親切な先輩方、同期入学した友との出会いに本当に恵まれて
いる。そしてその「縁」も手伝い、韓国政府奨学金生の語学研修機関で
あるここ慶熙大で、様々な情報・アドバイスを得て試験を受け、この9
月よりめでたく韓国政府より奨学金生として合格してきた。当初、私
費で來た私にとっては頗つてもない朗報をつかむことができ、これから
の留学生活をより充実としたものにできる確信が掴めた。

大学を卒業して約2年半は会社員生活をしていたが、社会で得た
経験も挫折も全て今、私の糧になっていることは間違いない。これまで
掴んできた全ての「縁」がこうして今、花開いたのだから。



▲友人と近くの駅のホームで(左が川上さん)



▲留学生仲間とベトナム料理を囲む会



学食での交流風景



タムタム演奏(左、上左)

情報文化学科3年 奥村潤一郎
今までアフリカの方々の前でタムタムを叩く
機会がなくとも緊張しました。音が出るとい
う程度の自分のリズムに皆が踊りだしたとき
には感動しました。音楽には国境がないとつ
くづく感じました。

情報文化学科講師 長坂 格

アフリカの先生達を迎える!

新広報委員長挨拶 大竹 康夫

湧 YUUGEN 源

編集後記に代えて

本号では開学10周年記念事業の報告を特集しています。私はちょうどこの記念すべき年に本年度の広報委員長を引き継ぎました。私の使命は開学以来、地域の大学として社会に受け入れられてきた結果として築かれた基盤の上に、次の10年に向けての広報戦略の第一歩を確立することであると認識しています。

しかし次の10年の大学を取り巻く教育と経営環境にはかなり厳しい現実があります。先ず教育面では、①初等中等教育における改定学習指導要領による入学生の学力に対応すること、②産業構造変化と競争力強化のための人材要件と大学教育とのミスマッチを解消すること、③社会人の専門的な継続教育ニーズを取り込むことなど、教育カリキュラムの構成と内容に影響する課題があります。

他方、経営面では、①18歳成人の絶対的減少傾向の継続、②国立大学の独立行政法人化による競争環境の激化、③大学認証評価の制度化による質的充実の要請など、大学経営に大きなインパクトを与える要因があります。

これらの教育と経営上の諸課題に現実的に対応するには従来からの伝統的な大学のシステムからの発想だけでは困難であり、教職員の意識改革を伴う組織的な教育システムの変革が必要であるといわれています。

「国際化に生きる、情報化を活かす」という開学の基本理念を実現する教育システムは時代の要請にしたがつて変革を求められています。本誌では今後は、従来からの情報提供に加えて、前に述べたような大学が直面する課題に対して本学がどのように対応しようとしているのか、というテーマについても、特集記事などで取り上げて行きたい